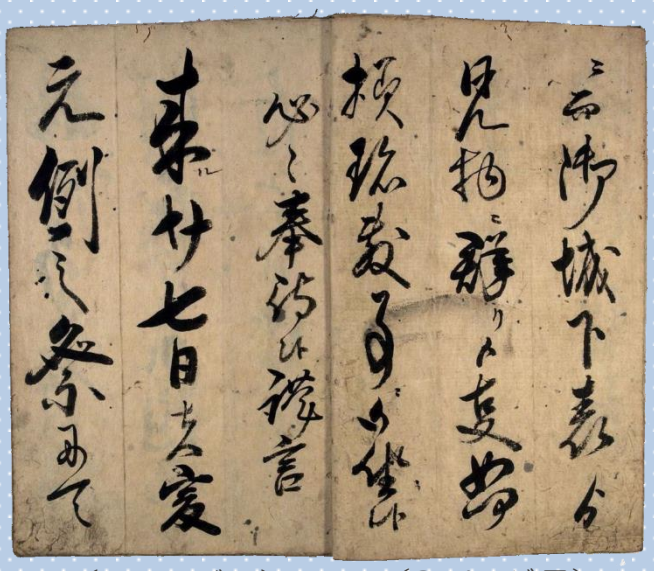
網（あみ）にかかったのは鯨（くじら）

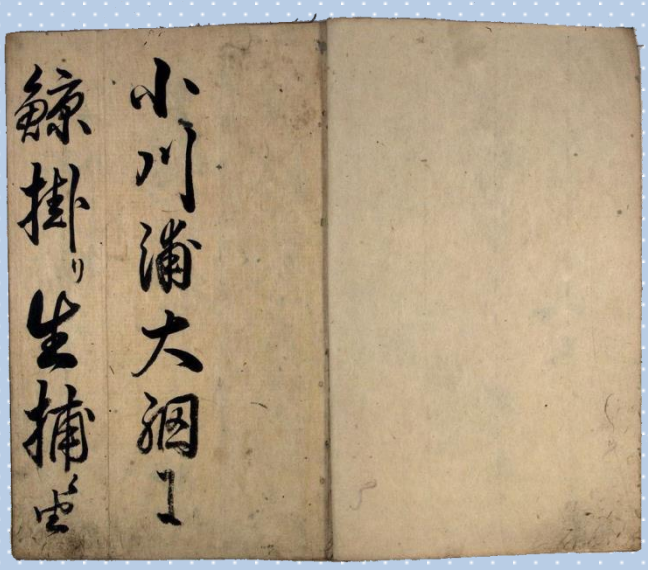
ある日、小川浦（常神（つねがみ）半島の西側中央、小浜藩領）の漁網に生きた鯨がかかりました。その噂は小浜城下をかけめぐり、小浜城下の人たちは、鯨をひと目みようと小川浦につめかけました。

これも、手習本に書かれていたお話です。

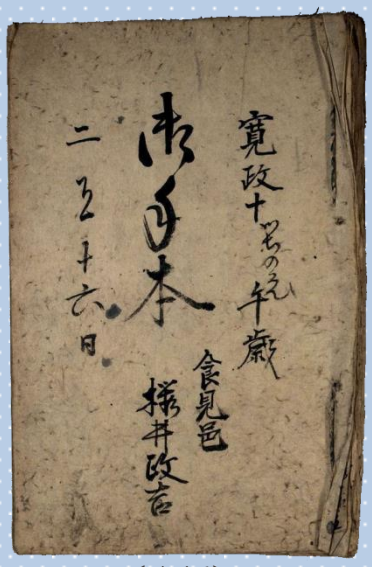
この手習本は、手習いをしていた食見（しきみ）村（常神半島の南、世久見（せくみ）浦の枝村）の男の子が、手習いの先生にもらったお手本を集めてつくったお手本集です。先生は、実際に見聞きした出来事をもとにしてお手本をつくっていたようで、鯨の他に、小浜の製塩や祇園会などもでてきます。大きな出来事から小さな出来事まで、偶然に記録された小浜藩の日常です。



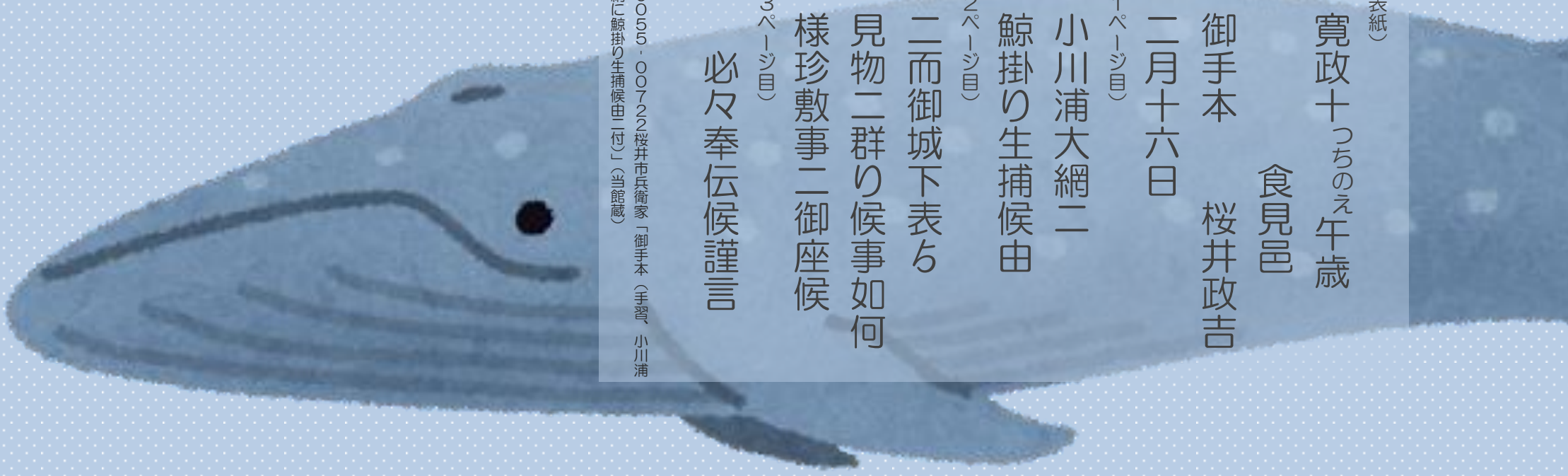
（3ページ目）　（2ページ目）



（1ページ目）



（表紙）



（表紙）
寛政十つちのえ午歳
食見邑
御手本　桜井政吉
二月十六日
（1ページ目）
小川浦大網ニ
鯨掛り生捕候由
（2ページ目）
二而御城下表ゟ
見物ニ群り候事如何
様珍敷事ニ御座候
（3ページ目）
必々奉伝候謹言

N0055・00722桜井市兵衛家「御手本（手習、小川浦大網に鯨掛り生捕候由ニ付）」（当館蔵）